

## 「少年サンデー 超画力募集用シナリオ」

七月鏡一

このシナリオはあくまでも素材だ。

キミはこのシナリオに忠実であってもいいし忠実でなくてもいい。

登場するキャラクター像もあいまいだ。

性別や年齢や外見をアレンジしても構わない。

見たいのはキミがこのシナリオから何を生み出すかだ。

キミの画力を見せてくれ。

キミの表現力を見せてくれ。

キミの想像力を見せてくれ。

ボクたちはそれが見たいんだ！！

## 「DUEL：サムライVSガンマン」

○状況：現代 高層ビルの屋上

屋上に上がってきたのは一人のサムライだった。

サムライ 「待たせた。エレベーターというものがよく分からなくてな」

屋上の給水塔の前で待っていたのはまた一人のガンマンだった。

ガンマン 「気にするな。オレもこの高層ビルってヤツはどうにも馴染めねえ」

距離を取って向き合う二人。

サムライ 「我らは似た者同士というわけだ」

ガンマン 「そのようだな。じゃあ挨拶も済んだところで——」

ガンマンは瞬時にリボルバーを抜いて撃つ！ 銃火が彼の不敵な眼差しを照らしだす！

飛来した銃弾をサムライが刀の抜き打ちで斬り飛ばす！ 火花が散って、彼の氷の眼差しを照らしだす！

ガンマンはニヤリと笑う。サムライは走って距離を詰める。

ガンマン (弾丸を斬りやがった！)

ガンマンの連射。その全てを斬るサムライ。刀がみるみる刃こぼれする。

サムライ (装弾数は6発！ 弾切れが早いかわ刀が折れるのが早いかわ！?)

バキーン！ 5発目の弾丸を斬った瞬間、刀が折れる。

折れた刀を振り上げたサムライ。ガンマンは狙いをつける。

サムライ 「撃て、“西部の賞金稼ぎ、… 勤皇佐幕相争う時代から“げんだい、とやらかに流されさまよう日々もこれで終わりだ…」

ガァーン！ ガンマンは最後の一発を撃つ。

弾丸はサムライに当たらなかった。彼の背後の夜空に弾痕が穿たれ、星空がひび割れる。

ガンマン 「“幕末の人斬り、よ。あいにくオレが撃ちたいのはお前じゃねえのさ」

夜空が砕け、“敵、が現れる！ 巨大で悪意に満ちた存在が！

サムライ 「なんだこいつは！？」

ガンマン 「オレたちを元の時代からさらって殺し合わせたクソ野郎さ！ いると思っただぜ！ そこが特等席だからな！」

ガンマンは立ち上がり、背中に隠していた刀をサムライに放る。

ガンマン 「博物館から奪ってきたが業物だそうさ！ 手を貸せ“人斬り、！」

空中に浮遊する最後の敵に対峙する二人の戦士。戦いはここから始まる！